

ハンコを着ているあの鶏たちを。彼等は GENRI と呼ばれるこの収容所のカポーだ。

やつらには気をつけよ。

ひな型をとさかにはめさせてはならぬ。

プロイラーがひよこの時から決まっていた運命か否、否、否、否、

はじめることだ。あきらめずにまずはじめることだ。(それがようやく、おろかな私にもわかってきた) 鶏友に、本当の鶏の姿を教えることだ。主人の目を盗んでは、外にぬけ出して外の空気と太陽と緑のすばらしさを教えることだ。太陽の中で息づき、はばたくことがどんなことかを。(ただし、最近の外こそ危険になっていることもつけ加えて)

主人はやつらではない。

主人は我々だ。

カポーにはなりさがるな。

養鶏場はいらない。

大地こそ、我々の生きる場だ。

養鶏場に新たに送り込まれてきた若鳥たちよ。

まず、我々がプロイラーの収容所に入れられていることを自覚せよ。そして、地卵の味を知れ。

それを広めよ。

土もなくば、主人とカポーの手で、頭天から肛門までくしざしにされて“やきとり”にされて食われてしまう時代が必ずやってくるぞ。

コッケコッコー！

## 学 部 の 記 録

### 人 事 異 動

#### 〈採用〉

(教官の部)

11. 4 土井 悠子 (英語 教務員)

11.20 永見 勇 (英語 講師)

1. 4 中根 周歩 (自然環境研究 助手)

2. 1 館山 豊 (英米研究 助手)

(事務の部)

10. 1 吉井 瑞恵 (社会文化)

#### 〈昇任〉

(教官の部)

10. 1 杉本 助男 (人間動研究 教授)  
名古屋大学環境医学研  
所助教授より

高橋 史樹 (自然環境研究 教授)  
京都大学農学部助教授  
より

(事務の部)

10. 1 今田 能之 (学務第二係長)  
学務第二主任より

岩本スミエ (庶務係庶務主任)  
庶務係より

#### 〈配置換〉

(教官の部)

10. 1 富井 利安 (社会文化研究 助教授)  
宮城教育大学教育学部  
助教授

栃木 省二 (自然環境研究 教授)  
高知大学農学部教授よ  
り

福岡 義隆 (自然環境研究 助教授)  
福島大学教育学部助教  
授より

(事務の部)

10. 1 村上 秀子 (用度係)  
歯学部歯学科より

横田 和子 (学務第二係)  
庶務部人事課職員係より

#### 〈配置換〉

(事務の部)

10. 1 上村 恵子 (用度係)  
庶務部庶務課秘書係へ

山根 博雄 (学務第二係)  
庶務部人事課給与第二  
係へ

#### 〈改姓〉

11.28 辰川 啓子 (環境科学) 旧姓 桑田

## 海外渡航者

(出張および研修)

式部 久 (ヨーロッパ研究 教授)	目的	19世紀技術学の成立過程に関する研究
渡航先		
目的		
期間	52.9.11 ~ 52.9.30	期間 53.12.6 ~ 54.2.28
安田 喜憲 (自然環境研究 助手)		藤井 博信 (基礎科学研究 助教授)
渡航先	大韓民国	渡航先
目的	韓国における環境変遷史と農耕の起源に関する調査	目的
期間	52.10.1 ~ 52.10.25	期間
藤原 健蔵 (自然環境研究 教授)		前田 渡 (情報行動基礎 教授)
渡航先	大韓民国	渡航先
目的	韓国における環境変遷史と農耕の起源に関する調査	目的
期間	52.10.17 ~ 52.10.22	期間
塚田 松雄 (自然環境研究 教授)		正法地孝雄 (情報行動基礎 助教授)
渡航先	アメリカ合衆国	渡航先
目的	生態学研究のため	目的
期間	52.10.20 ~ 53.6.15	期間
津端 修一 (自然環境研究 教授)		山下 和男 (自然環境研究 助教授)
渡航先	アメリカ合衆国	渡航先
目的	流域における水開発と都市計画についての研究	目的
期間	52.11.11 ~ 52.11.24	期間
佐藤 道郎 (ドイツ語 助教授)		倉石 晉 (自然環境研究 教授)
渡航先	大韓民国	渡航先
目的	仏教資料研究	目的
期間	52.11.21 ~ 52.11.26	期間
木本 忠昭 (社会文化研究 助手)		丸山 孝一 (アジア研究 助教授)
渡航先	ドイツ民主共和国	渡航先
		目的
		期間

## 編 集 後 記

就職・進学を真近に控えた四年生の声をきいてみようということで企画された今回の特集、こちらの計画が甘かったために、四九年度生全員の声を載せられなかったことをお詫びしたい。又、四年生の皆さんが卒論等でなにかと忙しい時期に、こちらの用意したアンケートの愚問に親切に答えてくださったことに感謝したいと思う。

この特集によって、去っていく人達の様々な想いを、その空白を埋めるかのように入ってくる次の人達に少しでも伝えられることができれば、幸いである。

新入生を暖かくむかえいれたいと思う。

期待に胸をふくらませてくる（もともとふくらんでいる人もいるかもしれないが）新入生の眼に、総合科学部がどの様にうつるかはわからないが、「飛翔」の編集活動にかかわることを通して、総合科学部での生活を生き生きとしたものとしてくれる様、期待したい。今度で8号を数えるのに、まだまだ総科生になじみの薄いこの「飛翔」、新入生の若い力で「卑少」な存在とせず、せめて「微笑」なみに皆が興味をもって読んでくれる様な誌面にしてほしいものである。

コーハイのみなさん、ガンバリンシヤイヨノ

（引退する編集委員より）

— 以 上 —